

先進医療

子宮内膜受容能検査（ERA）説明書

先進医療の名称：子宮内膜受容能検査

適応症：不妊症（卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床又は妊娠に至っていない患者に係るものに限る。）

（先進性）

子宮内膜受容能検査(ERA)に基づき個別化胚移植（pET）を行うという概念は、2013年に初めて報告され、反復して着床・妊娠に至らない一部の不妊症患者では、「着床の窓」（WOI）のずれが、着床不全の原因となることが示唆された。

（概要）

子宮内膜を採取し、次世代シーケンサーを用いて遺伝子の発現を解析し、内膜組織が着床に適した状態であるのかを評価する検査。吸引用子宮カテーテルを用いて、子宮内膜を採取する。

ホルモン補充周期の場合は、エストロゲン投与により一定の厚さに子宮内膜を肥厚させ、その後プロゲステロン投与開始後6日目(120時間目)で子宮内膜採取を行う。

自然採卵周期の場合はLHサーージ後7日目またはhCG投与後の6日目に採取するが、自然周期では、血中LHが不規則に上昇する症例もあり、医師により判断が異なる症例があるため、ホルモン補充周期のみでERAを実施とする。採取した子宮内膜を検体とし、次世代シーケンサーをもちいて236遺伝子を網羅的に解析し、内膜組織がReceptive（受容期）かNon-receptive（非受容期）かを評価する。また、Non-receptiveの際はどのくらいReceptiveまでに差があるかも評価を行う。

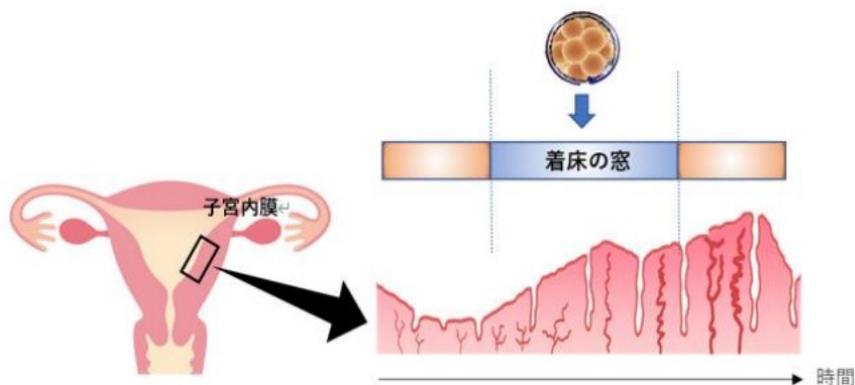
子宮内膜が着床を受容する期間に周期を同期させ、胚移植を行うことで着床率の向上を目指す。

（効果）

本検査結果に基づいて適切な時期に胚移植を行うことにより、着床率等が改善する可能性がある。

（副作用・合併症） 施行時の疼痛、迷走神経反射、性器出血、感染などがあげられる。

ERA (Endometrial Receptivity Analysis)



“ERA”とは、子宮内膜の適切な着床時期を評価する検査です。子宮内膜はホルモンの影響で発育、成熟し、着床に向けて準備を行います。

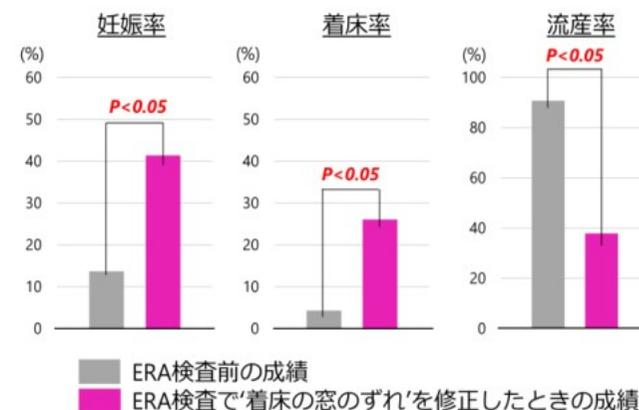
着床の準備が整った状態を“**着床の窓**”と言います。つまり、適切な胚を移植しても着床の窓がズれている場合は妊娠率が大きく低下します。

ERAは胚移植する日の内膜が着床可能状態にあるかを遺伝子レベルで調べる検査です。

一般的に、IVF反復不成功の方の**約3割**で“着床の窓”がズれていると報告されています¹⁾。

当院のデータでも同様であり²⁾、さらにERA検査の結果を参考に胚移植の時期を調整することで、**妊娠転帰が改善**することも明らかにしました²⁾。

基本的には、体外受精において良好胚を移植しても着床しない方に対して本検査を提案していますが、興味があればいつでもお尋ねください。



1) Carlos Simon et al.:Prospective, randomized study of the endometrial receptivity analysis (ERA) test in the infertility workup to guide personalized embryo transfer versus fresh transfer or deferred embryo transfer.; ASRM Annual Meeting 2016

2) 門上大祐 第64回 日本生殖医学会学術集会